

梅光学院大学図書館新聞

創刊号

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。また、在校生の皆様は、新しい1年に向けて意気込んでいることでしょう。

さて、この図書館新聞は、図書館サポーターの学生によって作られた第1回目の図書館新聞となります。内容としては、新刊情報、貸出ランキング、オススメ本などの情報を発信していきたいと思います。今回は第1回目の企画として『レポートの書き方』について取り上げています。レポートの書き方についてわからないことがあれば、どうぞこれを活用してください。この図書館新聞は今後、季刊誌として発行していきますので、これからもよろしく願いいたします。

(梅光学院大学図書館サポーター 一同)

新刊情報(一部抜粋)

1. 『青少年白書：青少年の現状と施策』
内閣府編 (2003. 7)
2. 『児童心理学の進歩』
日本児童研究所編 (1992-)
3. 『星の王子さま』
サン=テグジュペリ著 (2005. 12)
4. 『アンをめぐる人々』
L.M. モンゴメリー著 (2006. 1)
5. 『詩篇を味わう』
鍋谷堯爾著 (2005. 10)
6. 『名画のキーワード：絵に隠された画家の言葉』
視覚デザイン研究所・編集室編
(1992. 6)
7. 『英語のことわざ・名言：比較文化的考察ノート』
児玉実英, 河内清志執筆 (2004. 12)
8. 『近代詩から現代詩へ』
小海永二著 (1966. 4)

貸出ランキング

1. 『在原業平・小野小町』
目崎徳衛著 (1970. 10)
 1. 『聖書のイエスと椎名麟三』
富吉建周著 (2000. 2)
 1. 『子どもたちはなぜキレるのか』
斎藤孝著 (1999. 8)
 1. 『ヘミングウェイ再考』
滝川元男著 (1968. 7)
 1. 『源氏物語』
阿部秋生 校注・訳 (1994. 3-1998. 4)
 1. 『たのしく読めるアメリカ文学』
高田健一ほか編著 (1996)
 1. 『血の婚礼：三大悲劇集：他二篇』
ガルシーア・ロルカ作 (1992. 7)
 1. 『栄花物語 本文と索引 自立語索引篇』
高知大学人文学部国語史研究会編
(1985)
- (同率1位のため、このような表記になっております。)

図書館サポーター募集

学生と図書館とで協力し合って、よりよい図書館をつくっていきませんか？本を読むのが好きな人、図書館に対して意見のある人、図書館サポーターはただいま参加者を募集中です。少しでも興味のある方は、増子研究室(4月よりひこ・田中研究室)までご連絡ください。

おすすめ図書

【図書館サポーター】

石田かおり著

『化粧せずには生きられない人間の歴史』(講談社現代新書)

私は化粧をしないと外出できません。と、そこまで極端ではありませんが、身嗜みとして、またおしゃれとして化粧をしています。

本書によると「有史以来、たとえ戦争中であっても化粧が途絶えたことは一度もなく、化粧をさない地域は地球上どこに行っても」ないそうです。世界各国の化粧の変遷を辿りながら、「人間とは何か」を思いめぐらせてみては？

尚、化粧というと女性のものと思われがちですが、男性でも「化粧」は行っています。女性ばかりでなく男性でも楽しめるでしょう。

石田衣良著

『4TEEN』(新潮文庫)

この作品は、石田衣良の直木賞受賞作品です。石田衣良を『池袋ウエストゲートパーク』でご存知の方も多と思います。『4TEEN』は、ナオト、ダイ、ジュン、テツローの14歳4人を中心にした話です。早老症という病気のナオト、父親に問題のあるダイ、頭の回転の速いナオト、白らを平凡な14歳というテツロー。個人の問題であったり、全員が直面する問題があったり、そんな話が短編のように各章に書かれています。『4TEEN』は、14(フォーティーン)と4人のティーンエイジャーをかけています。彼らの貴重な14歳の1年間を、覗いてみませんか？

近江源太郎監修

『色々な色』(光琳社出版)

色鮮やかな写真とその色の名前が載っている一冊です。いわゆる図鑑です。だから文章を読まないで写真だけ眺めていても楽しめる一冊です。序章の虹の章から始まり、染め色の章、土や石の章というように各章に分かれています。また、ひとつの色に対して複数の色名がある場合にはそれも載っています。たとえば、スカイ・ブルーは、ほかにセルリアン・ブルー、セレスト・ブルー、天藍(ティエンラン)、虹藍(ホンラン)という言い方があるそうです。

ちょっとした息抜きに眺めてみてはいかがでしょうか？個人的には花の章がおすすめです。

浜本隆志 著

『魔女とドイツのカルト史』(講談社現代新書)

中世の集団妄想症候群、ハーメルンの笛吹き男、魔女狩りからユダヤ人の迫害・ユダヤ人狩りまでの、中世から現代にまで至る繰り返される悲劇。その真相を、カルトの観点から詳しく読み解いています。特に魔女狩りの章では、魔女と疑われた人々がどのような扱いを受けたのか、そしてどのように処刑されていたのかが詳しく記されています。

どのような人間が異端となるのか、中世から現代に至る変わらないその要素、恐ろしい集団心理を知ることになるでしょう。

マーカス・フィスター作 谷川俊太郎訳

『にじいろのさかな』(講談社)

虹色に輝くうろこをもつ世界でいちばん美しいさかなは、その美しさを自慢に思っていました。ある日、一匹の小さなさかな

がにじいろのさかなにうろこを1枚もらいたいと頼みました。しかし、にじいろのさかなは自分の美しいうろこをあげようとはしませんでした。そのせいで友達はいなくなり、いつもひとりぼっちでさみしいさかなになってしまいました。ある日、にじいろのさかなは、この悩みをたこに打ち明けました。そのたこが虹色のさかなにしたアドバイスとは？

自分さえ良かったらいいなんて思っていないませんか。友達の大切さ、他人を思いやる心の大切さを感じる事が出来る物語です。

**レイモンド・ブリッグズ著
『スノーマン』(評論社)**

レイモンド・ブリッグズの美しく心に残る名作です。雪が降ると雪だるまを作るのに夢中になった子供の頃。朝日を浴びて溶けてなくなってしまうのがとっても悲しかった。冷蔵庫に入れてずっとそのままにしておきたかったことありませんか？主人公の男の子も同じです。子供の頃に1度は夢に見たことのある雪だるまと過す楽しい1日。やさしい夢、心あたまるそんなファンタジック一夜の物語です。また文字のない絵本なので、自分でオリジナルの物語を作ることができます。

**ミッチェル著
『嵐と共に去りぬ』(1)~(5)(新潮文庫)**

主人公は、アメリカ南部の大農園主オハラ家の長女、スカーレット・オハラ。アシュレ・ウィルクスがメラニーと結婚することを知り、わざとメラニーの兄との結婚を決めます。ところが南北戦争が勃発。

運命に翻弄されながらも、自分の欲望のままに行動するスカーレットと、自分のことよりも周りの人のために生きようとするメラニー。対照的な二人の生き方を描いた、壮大な物語です。

ディケンズ著

『大いなる遺産』(上)(下)(新潮文庫)

幼い頃に両親を亡くしたピップは、鍛冶屋の妻になった怒りっぽい姉によって厳しく育てられました。美少女エステラに釣り合う人間になりたいと願い、鍛冶屋で働く貧しい自分を不幸だと感じます。

ところがある日突然、謎の人物から莫大な遺産を相続することになり、生まれ育った町を離れ、理想の生活を始めることになりました。

新しい生活を始めて、変わっていくピップ。憧れのエステラや、クセのある登場人物たちとの関わりを通して、人間の心理が細やかに描かれています。

【増子和男先生】

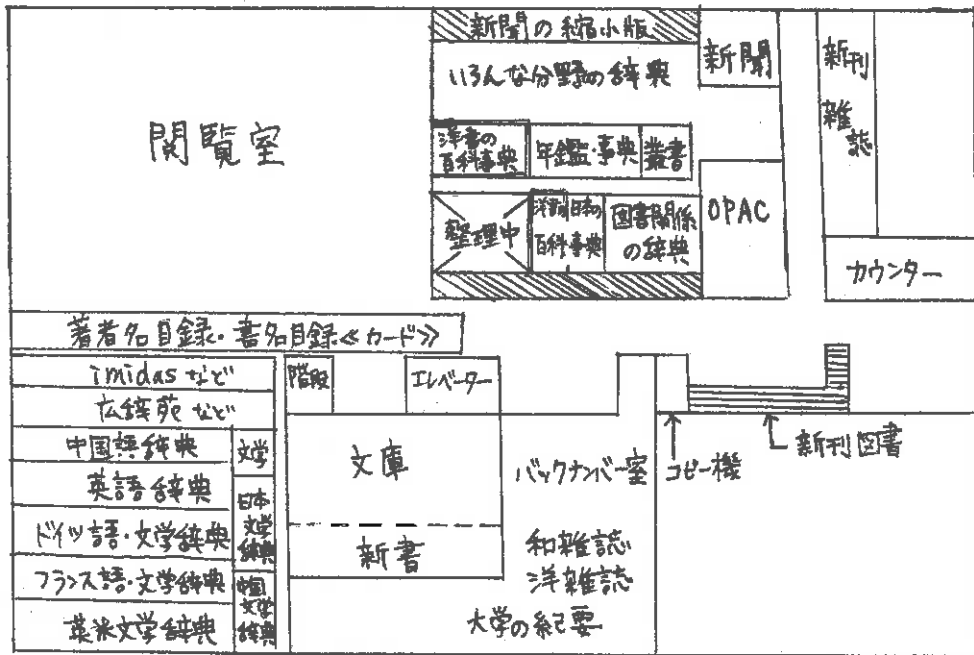
中野美代子著『中国の妖怪』(岩波新書)

—中国妖怪学入門に好適な一冊—

著者は、『西遊記』の研究者としても良く知られた人。自身も詩や小説を創作したり、洋の東西の様々な著述も翻訳。才気煥発、多芸多才の典型のような人物。この『中国の妖怪』も、著者が妖怪に関して中国だけのことをコツコツ掘り下げたものではなく、各国の神話から近代の文学、果ては考古学や民俗学などの成果を文字通り博搜して書かれたもの。しかもその文才を遺憾なく発揮した文体なので、ゆっくりと物考えるタイプの人だと眼を回しかねない情報量で、「中国の妖怪」の幾つかの謎を解き明かそうとしています。

中国の妖怪だけでなく、妖怪全般について考えたい人にとってはうってつけの一冊です。ただし、この著者の全般的な傾向として、その才気に寄りかかり過ぎたところがあり、正確な、と言うか地道な考証は苦手のようで、この著書の引用には一寸注意が必要のようです。

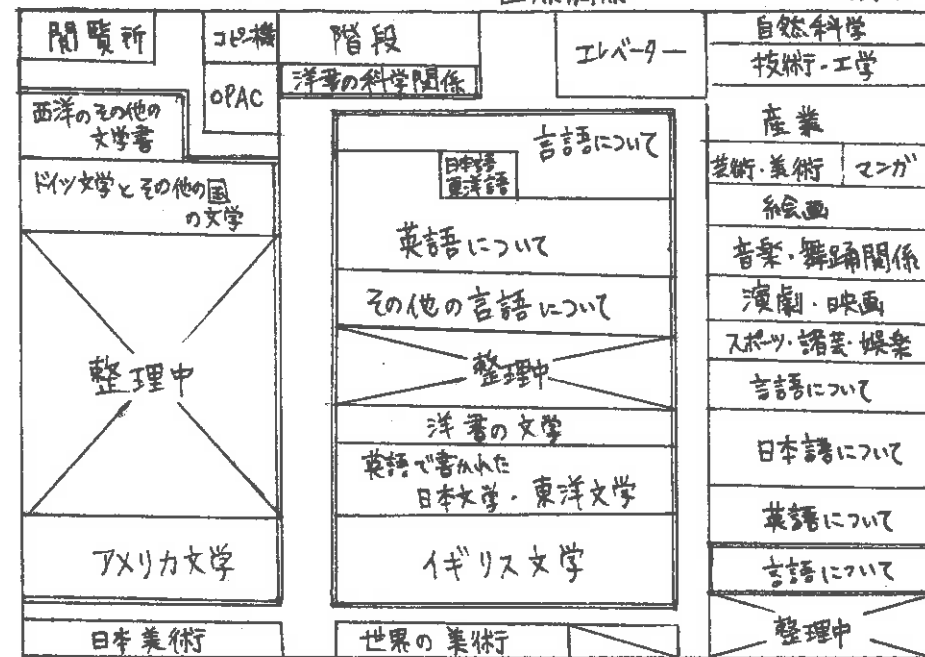
1階 《辞典・文庫》



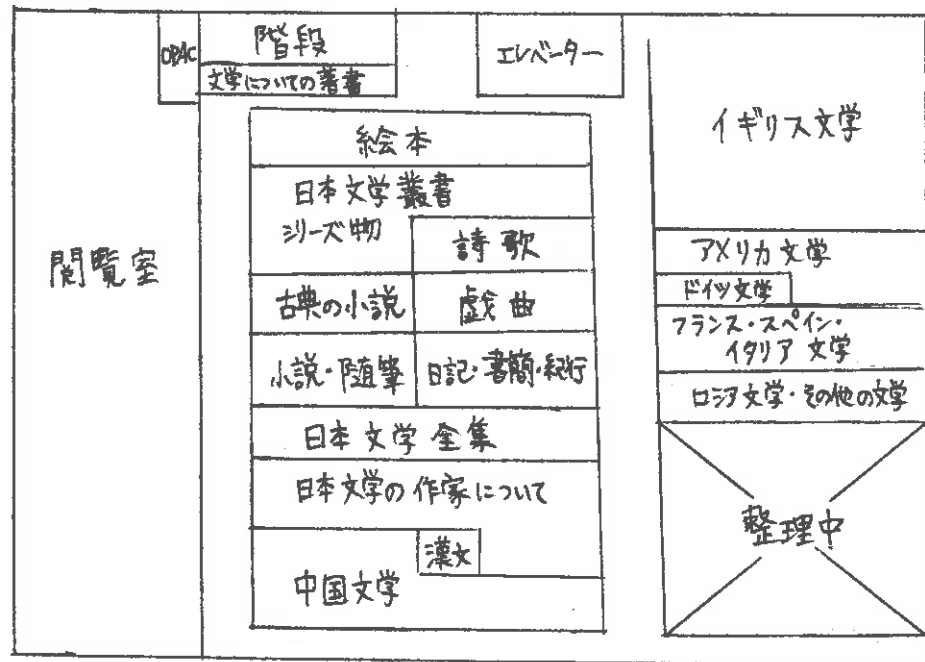
3階 《洋書 90% 和書 10%》

自然科学とは
科学関係
数学関係
医療関係

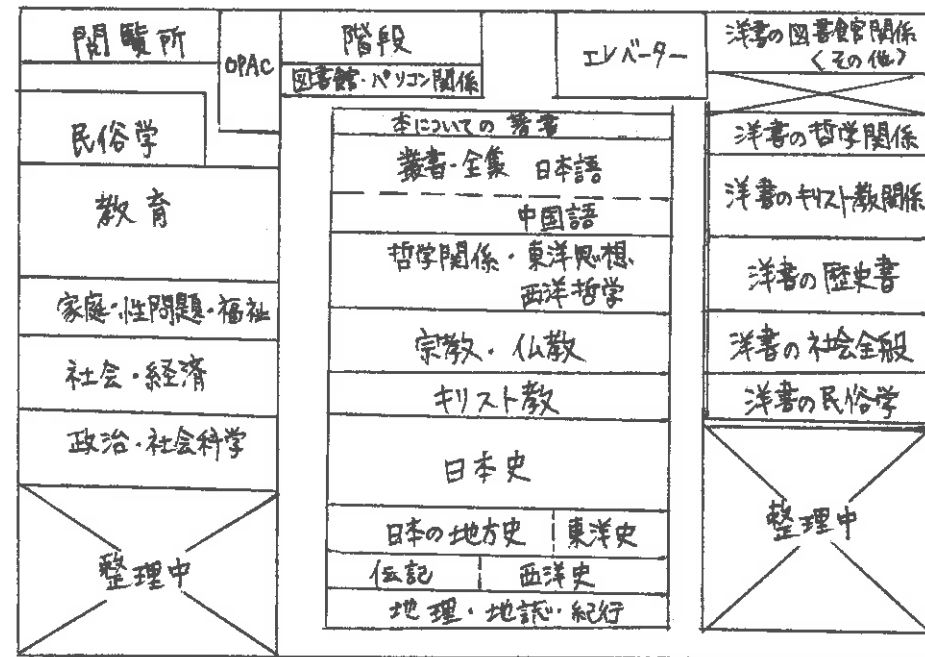
技術・工学とは
建築関係
工業関係
食関係 のことす



2階 《日本語で書かれた文学書》



4階 《図書館関係 社会関係》



レポート、論文のまとめ方

ステップ1. テーマを選ぶ

与えられた課題から、自分の興味、疑問、主張などに照らし合わせて、人に訴えたい話題を選び、テーマを絞り込む。

その話題について、何が問題なのか、どんな風に問題なのかを明らかにする。

その問題に対して、自分はどのように考えているのかを自分の言葉で言いあらわす。

ステップ2. 予備知識を持つ

決定したテーマについて、自分がどこまで知識を持っているのか見極め、また、その問題についての専門知識やキーワード基礎知識を正確に理解しておく。

具体的には、そのテーマの入門書を読む、百科事典や専門事典などを調べる、など。

不十分な知識のままレポートを書いても的外れなことに終わることが多い。

ステップ3. 仮アウトライン（章立て）の作成

自分が書こうと思う事柄を項目にまとめ、それぞれの繋がりを考えて構成し、仮アウトラインを作ってみる。

起承転結の形、序・本・結論の形にしてそれぞれに何をどんな順番で書いていくか、見出しをつけて形にしてみるとレポート全体のイメージが掴みやすい。

ステップ4. 関連資料・関連文献の調査

テーマに相応しい資料を探す。

すでにそのテーマについて調査されたり考察されたりした、本・雑誌論文・新聞記事その他等の先行文献を読んで、その中の知識や情報を参考にしながら自分の考えをまとめるものなので、必ず関連資料・関連文献は調べなければならない。

ステップ5. 関連資料・関連文献の入手

図書館で借りる、コピーするなどの方法で必要な資料・文献を手に入れる。

レポートの後に付ける注・参照や参考文献リスト作成のために、使った参考文献は、必ず書誌データのメモをしておく。

例) 図書の場合：著者名、『書名』、出版社、出版年

雑誌文献の場合：執筆者名、「論文題名」、『雑誌名』、雑誌の巻号、発行年月、掲載ページ

ステップ6. 関連資料・関連文献を読んで考える

主体的、批判的に読む。著者や執筆者の立場や時代を考慮して読む。広く異なる立場の人のものを読む。

読むときのポイント

- ・文献が書かれた目的は何か？
- ・文献が扱っている対象（テーマ）は何か？
- ・用いているデータや文献は適切か？ 情報源は確かか？
- ・データや文献の分析の仕方は適切か？
- ・事実と意見が区別されているか？
- ・結論・主張は何か？
- ・目的と考察・分析、結果と主張は一貫しているか？
- ・どんな理論を用いているか？
- ・著者はどんな点に関心を寄せているか？
- ・倫理的、法的な問題はないか？ など

次の場合には、情報カードを作ると、執筆時に便利。

A. 原文を直接引用する場合

そのまま使いたい内容があったときは引用する。引用は原文のまま、句読点まで正確に引く。また、

どの資料・文献を引用したのかは、必ず注に明記する必要があるので書誌データを記録しておく。

B. 内容を要約する場合

内容を自分の言葉で言い直して使いたい時、要約する。この場合も、どの資料・文献を要約したのかは、必ず注に明記する必要があるので書誌データを記録しておく。

C. 自説の展開をする場合

資料・文献を読みながら、自分の意見、コメントを思い付いた時にメモしておく。これが自分の主張したいことだ、とはっきりさせておかないと、他人の意見に引きずられたレポートになってしまう。

ステップ7. 最終アウトラインの作成

資料・文献を読んで考えていくと、仮アウトライン作成時には気づかなかった問題や曖昧な部分が見えてきたりして、レポートに書きたいことがはっきりしてくる。そこでもう一度、アウトラインを作り直す。

これによって必要な内容の抜け落ちや内容の重複を防ぎ、レポート全体の釣り合いがとれるようになる。

ステップ8. 執筆と構成

最終アウトラインに沿い、情報カードを利用しながら書く。起承転結の形、または序論・本論・結論の形で、見出し語を付けて書いていく。

序論：レポートの目的（何を何故知りたいかなど）、範囲（どの視点から述べるのか）、限界（今回のレポートでは取り上げなかった事柄）、言葉の定義（専門用語）、調査方法、仮説等を書く。

分量は全体の5～10%程度

結論：まとめ、自分の意見、提案、問題点の指摘、次の課題等を書く。

分量は全体の10～15%程度

書き方の注意

A. 直接の引用の場合

短いものは「 」に入れる。数行にわたる長いものは原稿用紙上2字部分を余白にして書くようにし、はっきり引用であることを示す。

注1、注2、のように一連番号を与え、レポートの最後に出典としてそれぞれの書誌データを書く。

B. 資料・文献から借りてきた言葉や考え、資料から分かった事実

どの資料・文献から引いたものかを分かるように注を付ける。付け方はAと同様。

C. その他、本文で書かなくても理解する上で必要と思われる説明を注で補うことがある。

ステップ9. 出典の表示/注と参考文献リストの作成

引用文献リスト：注1、注2、と引用したり利用したりした順番に、資料・文献の書誌データを書く。

参考文献リスト：その他、引用はしないが基礎知識を得るところで読んだものなどを参考文献リストにする。

参考文献は著者名、執筆者名の50音順に並べてリストにする。

ステップ10. 仕上げ

定められた形式がある場合は、それに従って、期限を守って提出する。レポートの書き方、といった本を参考にしても良い。

形式の例

表紙：レポートのタイトル、科目名、提出年月日、学籍番号、氏名

目次

本文：序論、本論、結論（それぞれにタイトルを付ける）

注

参考文献リスト

参考資料：「レポート、論文のまとめ方」（一部要約）

2004年度 前期 図書館学課程講義 「図書館概論」配布プリント

講師：湯浅直美（敬称略）

図書館の利用について

(1) 開館時間

月、木、金 8:50～18:30

火、水 8:50～20:00

(月～金 学院礼拝中は一時休館)

土 9:00～17:00

長期休暇中 9:30～17:00

(2) 休館日

日曜日・祝日

創立記念日 (6月5日)

定例休館日 (毎月1日、日曜日の場合は次の月曜日)

夏季休館 (夏季休暇中の2週間)

冬季休館 (12月28日～1月4日)

春季休館 (卒業式翌日～入学式前日)

※開館時間の変更や臨時休館は、掲示でお知らせします。入館の際は、必ず掲示板を確認してください。

＋図書リクエスト＋

図書館に入っていない本で、入荷してほしい本はありませんか？

そういった本がある場合は以下の内容を記入後、切り取って、図書館内にあるリクエスト用紙入れに投函してください。

題名	
作家名	
出版社	
出版年	